

横手市増田まんが美術館

増田の伝建地区から歩いてすぐのところにある、横手市増田まんが美術館は、日本の漫画ファンや愛好家のためのメッカである。この美術館は 1995 年にマンガの原画を展示するために設立された。現在では、「一匹狼とカブ」の小島剛夕（1928-2000）、「ゴルゴ 13」のさいとう・たかを（1936-2021）、「クラゲ姫」の東村アキコ（1975-）など、著名な作家の作品を含む、数十万点のゲンを収蔵している。横手出身の漫画家・矢口高雄氏（1939-2020）の作品集を皮切りに、現在では国内外の 180 名以上のアーティストのオリジナル作品を展示している。当館の使命は、何十万枚ものマンガの原画を保存・展示することで、マンガ文化の共有と普及を図ることである。

1 階の「マンガ文化展示室」では、日本のマンガ文化の概要や当館の目的、マンガがどのように作られているのかなどを説明している。常設展示室は、オリジナル作品が展示されており、スロープ状の通路の壁に沿って、来館者を 2 階へと案内する。常設展示では、入稿前に作家が手を加えた鉛筆の跡や修正インクなど、貴重な資料を見ることができます。また、2 階には、秋田出身の漫画家の作品展示や、日本を代表する漫画作品の名言を集めた名台詞ロード、現代の漫画家から学ぶことができるワークショップルーム、約 25,000 冊の作品を閲覧できるマンガライブラリーなどがある。

入館は無料だが、館内 1 階には有料の特別展示スペースがある。ここでは、漫画家とのコラボレーションによるオリジナル作品の展示などが行われている。また、カフェスペースもあり、著名なアーティストが壁に残したオリジナルのスケッチも見られる。カフェの向かい側にある「マンガの蔵展示室」は、40 万点以上ものマンガを収蔵する最新式の大型収蔵庫である。壊れやすい原画にダメージを与えないよう、温度と湿度が管理されている。展示されているのはほんの一握りであるが、中央の端末を使って、美術館の全アーカイブの超高解像度画像を閲覧することができる。作品はスタッフによって丁寧にスキャンされ、カタログ化されている。紙の大きさや破損の可能性、作品の端や裏に書かれたメモなどを記録し、非常に高い解像度でスキャンするため、細部にまで気を配る必要がある。このような取り組みによって、たくさんの漫画家の作品が保存され、お客様や後世の漫画家がいつでも原画コレクションを見ることができるようになりたいとこの美術館は考えている。